

# じいちゃんのみみつ

加須市立種足小学校 五年  
眞 田 旺 揮

お昼にごろごろしていて、夕方は遊びに行くのがぼくのじいちゃんの日課です。そんなじいちゃんにあげられて、少し前から将来なりたい仕事で農業になりました。薬をしておいしいお米をつくれる最高の仕事だからです。一つだけ不思議だったのは、じいちゃんがいつもお米を育てているかでした。なえ植えしていたのは見たことがあります、それが終わってからはのんびりしていることが多いのです。そこで、夏休みを利用してじいちゃんのみみつを探ってみることにしました。

朝、起きてじいちゃんのところに行ってみると、テレビを見ながらご飯を食べていました。それが終わるとやっばりごろごろを始めます。少ししたら、出かけていったのでついて行くとビニールハウスで野菜の世話をしていました。夕方になると、いつも通り車で遊びに行ってしまうました。何日かじいちゃんを見ていましたが、ぼくが夏休みに入ってからずっとこのような生活でした。

ところが、八月のある朝、暑かったのでぼくが早起きをしてしまった日がありました。いつものようにじいちゃんを探しに行きましたが、部屋にいません。どこに行ったのか家や庭を探しましたが、やっばりいませんでした。ビニールハウスを見に行こうとしたときじいちゃんが帰ってきました。ぼくが「どこに行ってたの。」と聞くと「田んぼに行っていたんだよ。」と言いました。まだ朝の六時三十分でした。その後の生活はいつも通りでしたが、今朝じいちゃんは何をしていたのか気になったので、その日は早くねて明日早起きしようと思いました。次の日、目覚まし時計もかけずに五時に起きることができました。じいちゃんも起きていたので、行ってあいさつをして「どこに行くの。」と聞きました。「田んぼに行くんだよ。」と言うので一緒に連れて行ってもらうことにしました。田んぼに着くと井戸をあげて水を足します。いねの全てに水が行き渡っているかを調べて歩きました。広いので見回るのに時間がかかり、すぐつかれました。さらに野菜の世話をして、田んぼの周辺をそうじしてから帰りました。時間はこの前と同じ六時半でした。ぼくが「毎日やっているの。」と聞くと「お世話しないと育たないからね。」と言っていました。農業は楽な仕事だと思っただけ、見えないところで色々なことをしていたんだなと大変なことが分かりました。それを平気でやってのけるじいちゃんはやっばりすごいと思いました。

ようやく今まで不思議だったお米がおいしい理由が分かった気がしました。こんなに毎日じいちゃんに世話をしてもらったお米がおいしくならないわけがありません。それと同時にうちのお米はひとつぶが大仕事ということが分かりました。このことを知ってからぼくはご飯を味わいながら食べています。やっばりおじいちゃんのお米はおいしいです。